

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年10月24日（火） 午後6時から8時まで
場 所	河原子交流センター
出席人数	(1) 市 民 21人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計27人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>( 意見 ) (河原子学区)</p> <p>スケジュールがタイトで、予定どおりには進まないと思うし、学区によっては問題も多く、地域も廃れると思う。しかし、進行する少子化についての認識は共有できる。</p> <p>学校を統合すると行政効率上がるが、教育の質は落ちる。世界を見ると“小さい学校、小さいクラス”が主流なのに、日本は逆行している。クラスの人数については、WTOでは、16人程度が適正とっているが、個人的には、13人程度の学級が良いと思う。人が少なくなると統合というのは、強行するべきでない。小さいクラスではコミュニケーション力が落ちると書かれているが、それは間違い。少人数の方が、社会での応用力のあるバランスの良い子どもが育つ。</p> <p>地域の声を聞いてほしいし、噂ばかりが先行すると不安になる。情報を流してほしい。</p> <p>( 事務局 )</p> <p>検討委員会には、いろいろな立場の人に入っていていただいて検討している。現場の声を聞いていると、学級の人数は少なく、学校の規模としてはある程度の人数がいた方が良いと言われることが多い。</p> <p>地域の中にも、いろいろな考えがあると思うので伺っていききたい。いろいろな要素を汲んで検討していききたい。</p> <p>( 質問 ) (河原子学区)</p> <p>1クラスの児童生徒数は何人と考えているか。</p> <p>( 事務局 )</p> <p>国・県の基準で考えている。小学1、2年生は35人を上限とし、36人になると2学級になる。小学3年生以上は40人を上限としている。非常勤講師を配置するなど、できる限り弾力的に運用している。</p> <p>( 質問 ) (河原子学区)</p> <p>国・県の基準に立つことが前提か。学級の人数を減らすという考えはないか。</p> <p>( 事務局 )</p> <p>市内の学級人数の平均は、小学校で30人を少し下回り、中学校で30</p>

人を少し上回る程度。その中で一人一人に目が届くように配慮している。弾力的な運用はしているが、教員は学級数に基づいて県が配置している。国・県の基準以下で、市が単独で教員の配置をすることは難しい。日立市独自のものとして、特別支援学級在籍の児童を含めて35人を超える学級には、非常勤講師を配置(\*)しており、市でも努力はしている。

(\*)「学級」には、通常の学級と特別支援学級の2種類があり、児童生徒はどちらかの学級に在籍することになっている。通常の学級の基準(35人、40人)には特別支援学級在籍の児童生徒は含まれないため、日立市では、特別支援学級に在籍する児童生徒が通常の学級の活動(授業や行事)に参加することで35人を超える学級に非常勤講師を配置し、2人の教員で対応している。

#### (意見)(河原子学区)

私たちの意見がどの程度反映されるか分からないが、幅を持ってほしい。23あるコミュニティができた経緯や市町村合併の歴史、町村の歴史を踏まえてほしい。そのほか、子どもの年齢や居住分布なども踏まえて検討し、市民にオーソライズすることが大切だ。

懇談会に集まりが悪いのも、教育に関心はあるが、行政のプロに任せるような気持があるからだろう。学校の新しい形作りとして、日立らしさを出して、遠くても、電車を使っても通いたくなる学校にしてほしい。

学校が集約されたら、コミュニティも集約されるだろうという話も出ている。住民の気持ちを考慮してほしい。

#### (事務局)

日立市は南北に長い地形であり、広域には集約しにくい。コミュニティについても担当課と協議を始めている。計画の策定に当たっては、地域の御意見を伺っていききたい。

新たな学校づくりについては、学校運営協議会という考えがあり、これから具体的なものを検討していく。皆さんの御意見も反映させていきたい。

#### (教育部長)

検討委員会でもいろいろな意見が出ていて、なかなか結論が出ない。アンケートでは、小学校では1学年につき2~3クラスという回答が多いが、3クラスでは校区が広くなり過ぎて難しいということで、基準を2クラスにした。

他市町村ではスクールバスを使っているが、日立市としては、地理的な事情から、原則としてスクールバスは考えていない。

適正配置についても、いくつかの視点で考えている。計画どおりにはいけないと思っているが、手遅れにならないようにしたい。基準を出さないと議論にならないと思っている。いただいた意見の全部を反映することはできないが、青写真を描いて議論したい。

#### (意見)(河原子学区)

小規模校の良さをしみじみと感じている。小規模校しかできない子どものケアもある。統合された時の効果として挙げられているものは、全て大人の都合だと思う。小規模校だからこそ、少ない部活動の中から自分に合

うものを探し出すこと、少ない友達から合う人を探す、友だちの良いところを見つける能力が育つように思う。重きを置くところを子どもの目線で考えてほしい。子どもの心をみられる（ケアできる）ような環境を作ってほしい。

P T A活動に関わっていない人には、「適正配置基本方針」などの名称は分かりにくい。もっと関心を持てるようなものにしてほしい。

**( 意見 ) (河原子学区)**

P Rが下手。自分たちの学校がなくなるかもしれないと聞いて、P T Aの役員が集まった。他の人たちは分からない。市報やインターネットに出しているというが、見ない。

アンケートはどのようにとったのか。大規模校でのアンケートの意見をまとめられても納得いかない。

**( 事務局 )**

小・中・特別支援特別支援学校の保護者2,700人、一般(3,000人、うち幼児の保護者1,000人)、全教職員(1,000人)を対象にアンケートを行った。学校では、1,3,6年生の1クラスを対象に行い、複式学級のある学校は全保護者に実施した。合せて約7,000人、70%、約5,000人の方から回答をいただいた。

**( 意見 ) (河原子学区)**

アンケートをやるようなときには、P T A役員にも情報を流してほしいし、アンケートを回してほしい。役員をしている意味がない。

**( 事務局 )**

役員の方には、お知らせした方が良かったかもしれない。今後は、情報を流すようにしたい。

小規模校の良さも理解している。規模によって一長一短はある。部活動についても、子どもたちの選択肢を狭めていると感じている。

噂に振り回されることのないよう、正確な情報の周知を図りたい。

**( 意見 ) (河原子学区)**

検討委員会の議事録などを読んでいると、小さい学校の良いところについての意見もいろいろ出されているが、“基準以下の学校は統廃合”という流れになりそうで不安だ。

いろいろな規模の学校を経験することはできない。

アンケートでは、小規模校の意見は生かされないとと思う。小さい学校もいいが、時代の流れだから大きい学校へ行く方向性のように思っている。基準以上のところで説明会をしても、「いいよ、いいよ」ということになり、それが大多数の意見となってしまう。小規模校の意見も吸い上げてほしい。

著しく小規模の学校は、早くやってあげた方がいいと思っているが、河原子のように、小学校、中学校、コミュニティがうまくいっているところを一緒に考えないでほしい。

**( 事務局 )**

アンケートの結果は、地区ごとにバラつきはあるが、大きな傾向としては一致していると考えている。

( 意見 ) (河原子学区)

小中一貫の活用を考えてみるのも日立らしきではないか。

( 教育部長 )

複数の小学校から1つの中学校へ進学できれば、小中一貫校にしてもバランスよく進学していくことができると思うが、1小学校と1中学校での小中一貫校化では子どもたちは増えない。

( 意見 ) (河原子学区)

中里の例を聞いているので、そのようなこと(小規模特認校制度)も考えてみてほしい。

( 質問 ) (河原子学区)

参加者が少ないのは、PR不足だ。学校の保護者会などで説明しているのか。保護者への説明が必要ではないか。

学校にはいつまでも明かりがついていて、先生方は帰らない。子どもが減っているのに、先生方はそんなに忙しいのかと思う。

部活動を選んで学校を変更するのは、仕方ないと理解している。

こんなに参加者が少なくて、本当に考えてもらえるのか。たくさんの人に聞いてもらうことが大切だ

( 事務局 )

反省と御意見を踏まえて、今後の周知方法を検討したい。

( 意見 ) (河原子学区)

台風の影響で、大久保交流センターでの地域懇談会が中止になった。知らずに大久保交流センターへ行ったら、センターの担当者が分かっていなかった。中止の掲示があればよかった。

( 事務局 )

申し訳なかった。考え得る媒体で周知を図ったが伝わりきらなかったと思う。次回、同じようなことがあれば対応していきたい。

( 意見 ) (河原子学区)

参加しやすい時間帯にも配慮してほしい。夕方の6時では、食事の時間になってしまう。

( 意見 ) (河原子学区)

河原子は、周辺の大きな学校に吸収されていくのではないかと不安がある。大規模校の意見が反映されやすい傾向にあると思うので、小規模校の意見を多く聞いてほしい。PTA活動をしているので、普段は発せられない意見を集約して伝えたい。小規模校は、全体としてどのような意見を持っているかに注目してほしい。自分は大きな学校で育ったので、大規模校の良さも分かる。子どもは小規模校で生活しているが、小規模校で良かったと思っている。小さい学校の意見もよく拾ってほしい。

住んでいるところは沼小、河原子中のエリアであるが、人が住んでいるところと学区がズレている。

部活などを理由に、簡単に他校に流出してしまう状況がある。エリアの見直しについて、どのように考えているか。エリアを見直すなど、学校を残すための方策も検討してほしい。

( 事務局 )

居住に応じた学区の見直しなども合わせて検討したい。

日立市は学区制を敷いているが、許可できる理由での申請には、変更を認めている。部活動を理由にすることも文部科学省で認められている。

ある程度の学校規模があれば、部活動も同じように設置できると考えている。総合的に検討して案を作りたい。

( 質問 ) (河原子学区)

河原子地区は震災で大きな被害を受けた。地震、津波について小中学校とコミュニティで連携して防災教育を行っている。すぐに避難できるところに学校を残してほしい。

( 事務局 )

仮に統廃合されることになっても、防災拠点は重要なので、地域の中にその機能を残すことは検討して行きたい。

( 意見 ) (河原子学区)

少人数教育の良さがいろいろ出ているが、それについてのアクションはとってもらえるのか。例えば、アンケートを取り直す予定はあるか。来年度に予定している懇談会はどのレベルのものか。学校ごとに骨子がまとめられたものが示されるのか。

( 事務局 )

再アンケートも検討しているが決定していない。

懇談会の在り方も検討中である。今回の懇談会の中でも、いろいろ御意見をいただいているので、考えていきたい。

( 意見 ) (河原子学区)

検討するというものの実際には、「河原子中はこのようになります」というようなものが示されるという懸念があるし、このような少ない人数での懇談会では、河原子の意見としてもまとまりきっていないと思う。その意味で、今回と同じレベルの懇談会にしてほしい。

( 事務局 )

「これでよろしく」というようなやり方はしないつもり。一緒に考えていきたいと思っている。懇談会の開催時期によって、お示しする内容も変わると思う。

( 意見 ) (河原子学区)

もう骨組みがあって、どんな意見があっても、「この案で出しますよ」というような印象を受ける。

( 教育部長 )

今年1月の懇談会で、市の考えを示してもらわないと意見が言えないという御意見をたくさんいただいた。そこで、今回は、方針というアバウトなものではあるが、お示しした。

( 意見 ) (河原子学区)

10年、20年ぐらいのスペンは見ているのか。

( 教育部長 )

おおむね10年ぐらいを計画期間として設定する予定である。

( 意見 ) (河原子学区)

来年度、骨子(基本計画案)が出たとしても、10年ぐらいのスペンと

考えていいか。

( 教育部長 )

10年間の中には、早いところも遅いところも出てくるだろう。全てを一斉に取り組むことはできない。

( 意見 ) (河原子学区)

不動産の広告には、「〇〇小学校から徒歩△△分」と書いてある。家を買ったら学校がなくなるということになるかもしれない。10年後を見据え

るといようなビジョンがないと不安になり、部活のない河原子中は部活のある所に吸収されると噂が噂を呼ぶ。

計画年数を開示することはできないか。

( 教育部長 )

そういったことも含めて、来年度検討する。「この計画で決まりですよ」という言い方をするつもりはない。案をベースに議論してもらう。

( 意見 ) (河原子学区)

骨子ができてから考え直した方がいいのか、今の状態で考えていった方がいいのか。来年度いっぱい、このような流れが続くと考えていいか。

( 教育部長 )

今年度は、基準についての案を示して御意見をいただき、検討して基準を決める。来年度は、その基準を基に学校ごとにどのような形が良いかを検討していくイメージ。

( 意見 ) (河原子学区)

もう少し待ちたい。

( 教育部長 )

他市の事例を見ると、A校とB校を統合する場合、地域の合併協議会を作る。学校関係者やPTA、地域の方などに入っていて、統合した方がいいかどうか議論する。その結果、統合したところもある。統合しないところもある。計画ができたから、すぐに実現させるようなことはできない。

( 事務局 )

説明に具体性がないと言われるが、具体性を示すために決め込むと、意見を反映しないで決めるのかということになるので、基本的な考え方をお示しして御意見をいただいている。そのようにやり取りをしながら進めていきたい。

( 教育長 )

いろいろな御意見をいただき、ありがたい。

今の子どもたちを否定している訳ではない。元気に育ってくれている。

ただ、今後、子どもたちは減っていく。学校を魅力あるものにしていくということは大事なことだと思っている。そのために、できるだけ、皆さんの御意見を伺っていきたい。10年後には、今の子どもたちが次の世代を支える側となる。そのときに、どのような環境になっているのか考えていかなければならないと思っている。苦しいこともあるかもしれないが、ぜひ、皆様の御意見を伺っていきたい。

以上

